

2026年4月9日

報道関係各位

GMO インターネットグループ

AI エージェント業務活用率が約 7 割に急伸、 月間 35.2 万時間の業務削減を実現 ～Claude 利用率が 1 四半期で約 2 倍に～

GMO インターネットグループ（グループ代表：熊谷 正寿）は、「AI で未来を創る No.1 企業グループへ」を掲げ、グループ全体で取り組む生成 AI の活用・業務効率化の取り組みを進め、四半期に一度、生成 AI の活用に関する定点調査（※1）を実施しています。

2026年3月に実施した調査の結果、グループ全体の生成 AI 業務活用率は引き続き増加し 97.8%となりました。国内企業で AI 活用が進む中、GMO インターネットグループでは、ほぼ全パートナーが業務で活用する段階に到達しました。また、AI を活用しているパートナー（従業員）の複数生成 AI サービス利用率が 91.5%、有料サービス利用率は 82.0%に到達しています。さらに、1人あたりの月間の業務削減時間は約 53.9 時間となり、前回調査より 7.0 時間増加しました。これは約 2,203 人分の労働力を AI 活用により得られている計算となります。さらに AI エージェントの業務活用率は 71.4%と、前回の 43%から大幅に上昇し、Claude の利用率が約 2 倍に急伸するなど AI 活用の質と深度が飛躍的に向上しています。

AI エージェント業務活用率
約7割に急伸
Claude利用率は四半期で約2倍に



■ 調査サマリ

- 2026年3月時点で全体の生成 AI 業務活用率は 97.8%で引き続き増加を維持
- 生成 AI を業務に活用しているパートナーのうち 83.7%が「ほぼ毎日活用」（前回調査+8.3pt）
- 複数 AI サービス利用率は 91.5%（前回調査差+9.4pt）
- 「GMO AI ブースト支援金」（※2）で、有料サービス契約率は 82.0%まで増加（前回調査+6.3pt）
- パートナー一人あたりの月間削減・捻出時間は 53.9 時間となった（前回調査差+7.0 時間）
- AI エージェントの活用率は 71.4%と 7 割を超え急伸（前回調査+29.1pt）
- Claude の利用率が約 2 倍に

■ 調査概要

- ・ 調査テーマ : 「生成 AI 活用」実態調査
- ・ 回答者数 : 有効回答 5,353 人
- ・ 調査対象 : GMO インターネットグループの国内パートナー
(正社員、契約社員、アルバイト、派遣社員、業務委託)
- ・ 調査期間 : 2026 年 3 月 9 日 (月) ~ 3 月 13 日 (金)

(※1) GMO インターネットグループ定点調査 : <https://group.gmo/news/>

(2023 年 11 月 / 2024 年 4 月、7 月、10 月 / 2025 年 1 月、3 月、6 月、9 月 / 2026 年 1 月)

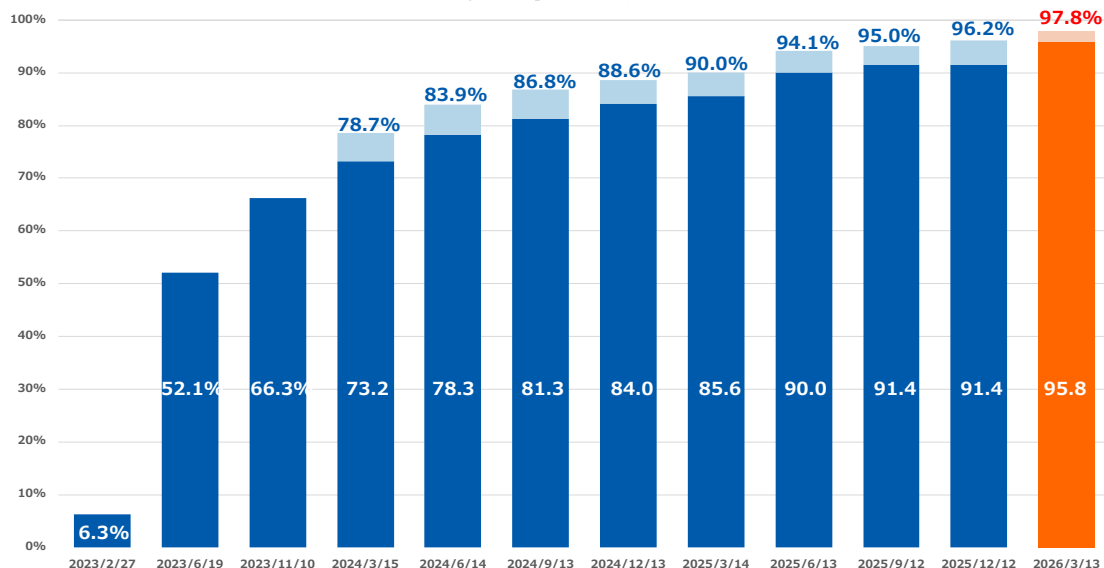
(※2) 「GMO AI ブースト支援金」 <https://group.gmo/news/article/9513/>

【GMO インターネットグループの生成 AI 活用調査結果】

① 生成 AI 業務活用率は、調査開始から継続して増加

- ・ 国内パートナー（シフト勤務除く）の 97.8% が生成 AI を活用（前回調査差 +1.6 ポイント）。
- ・ 業務に生成 AI を活用しているパートナーのうち **83.7% が「ほぼ毎日」** 活用していることがわかりました。
- ・ 生成 AI の活用により、グループ全体でひと月あたり約 **35.2 万時間**（前回調査差 + 約 6.3 万時間）の削減、1 人あたり約 **53.9 時間**（前回調査差 + 約 7.0 時間）の削減を実現しました。

生成 AI 業務活用率

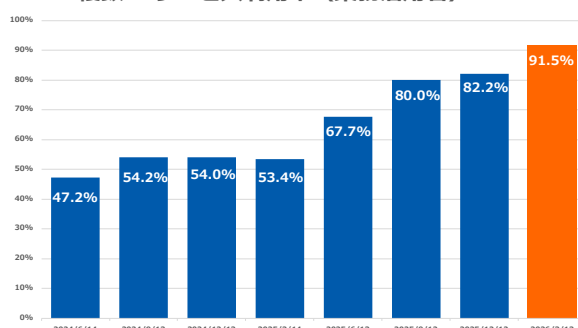


※シフト勤務除く国内パートナー

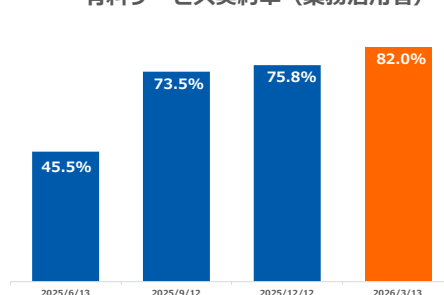
② 複数 AI サービス利用率は 91.5% に

- ・ 生成 AI を業務活用する人のうち、複数 AI サービス利用率は **91.5%**（前回調査差 + 9.4 ポイント）となりました。
- ・ **有料サービスの契約率は 82.0%** となり増加傾向にあります。
- ・ 昨年 6 月より開始した「GMO AI ブースト支援金」の活用により、複数 AI サービスを使い分けて利用することが継続して浸透しています。

複数 AI サービス利用率（業務活用者）



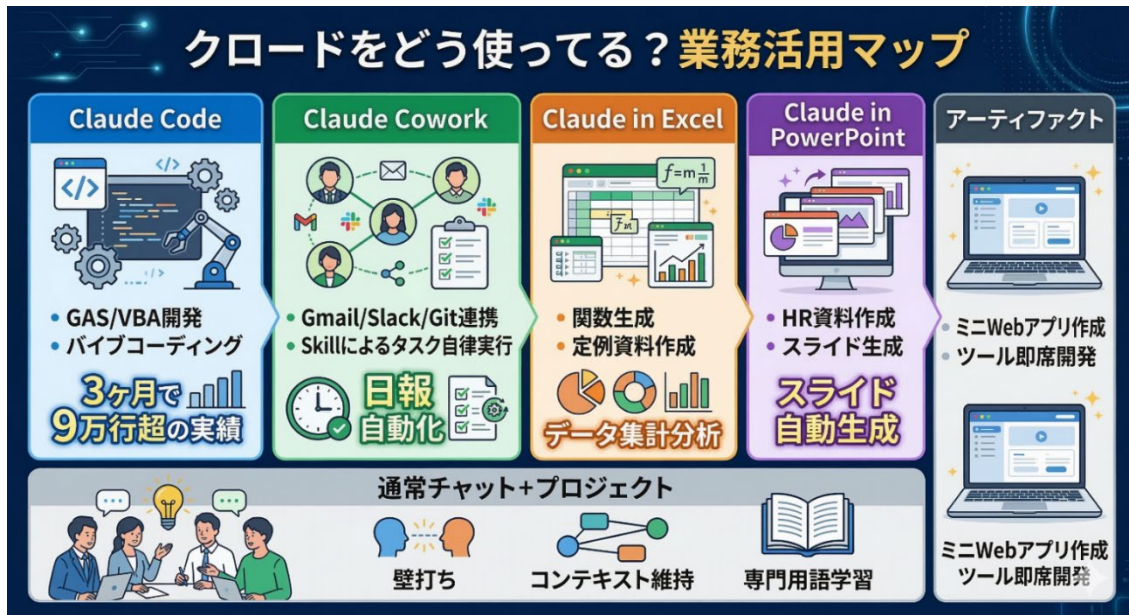
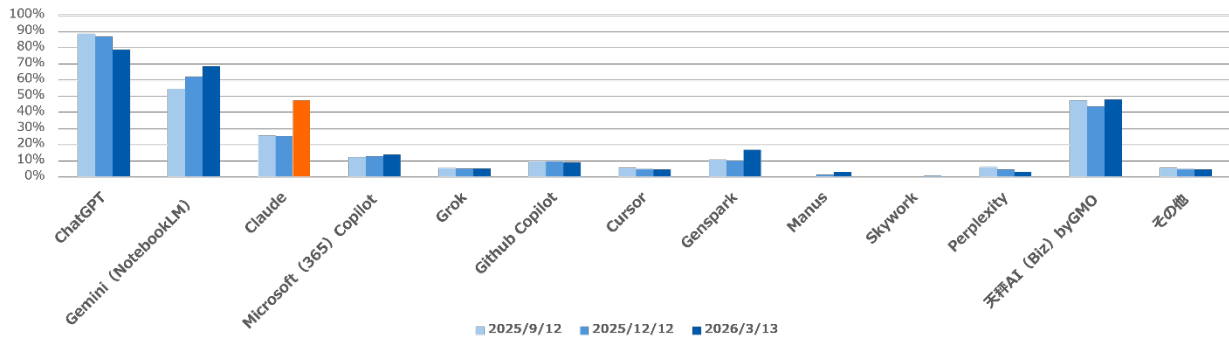
有料サービス契約率（業務活用者）



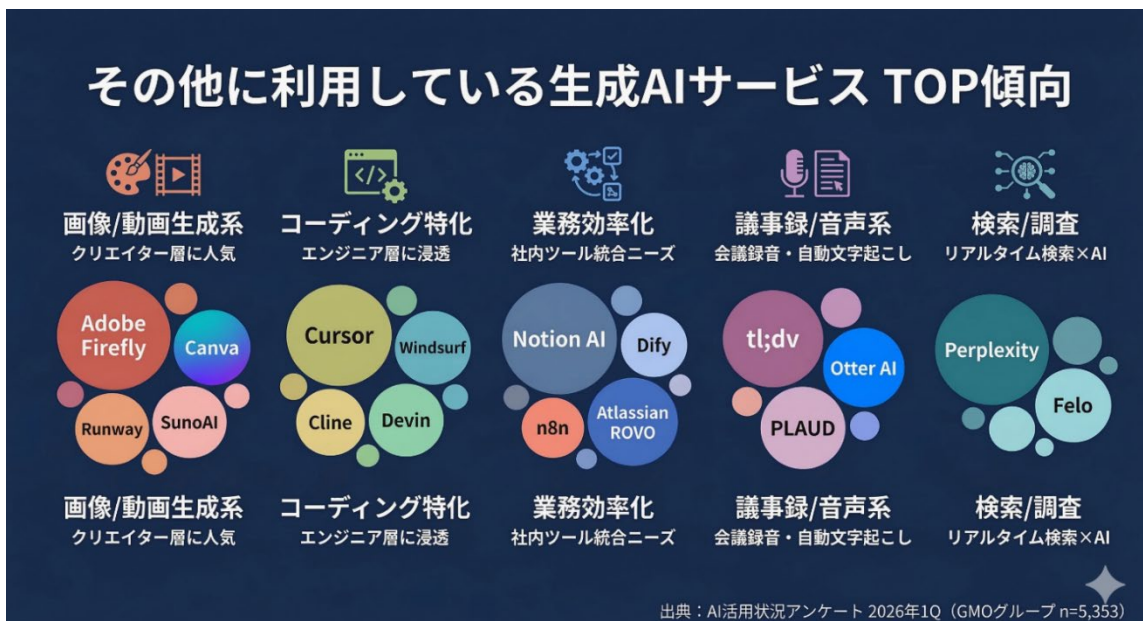
③ ChatGPT の利用は減少傾向。一方でグループ全体で活用推進している Claude は大幅上昇

- ChatGPT は利用が減少している一方で **Claude は約 2 倍**に大幅上昇しています。Claude Code や Claude Cowork などのサービスが続々と登場し **Claude 活用が伸びている**と考えられます。
- また Gemini、Genspark の活用率も上昇しています。
- そのほか、**利用用途によって利用する生成 AI サービスが異なります**。

日常的に利用しているAIサービス（業務活用者）



▲自由記述回答のAI生成によるインフォグラフィック例
※AI生成のため漢字が誤っている場合があります



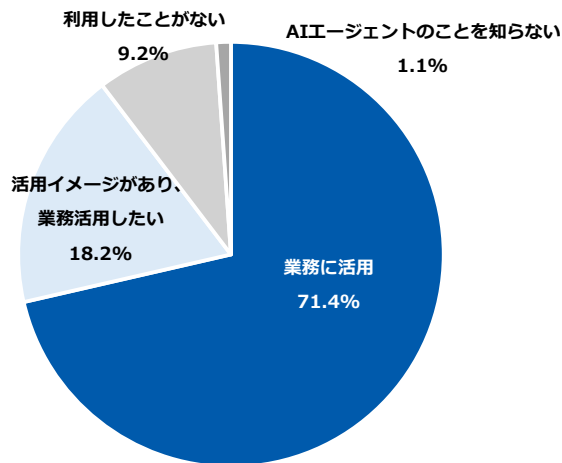
▲回答のAI生成によるインフォグラフィック例
※AI生成のため漢字が誤っている場合があります

④ AI エージェント活用率は71.4%

- AI エージェントの業務活用率は71.4%となり前回調査に比べて28.4ポイント大幅に増加しました。また、活用イメージがある人も含めると、89.6%と約9割に及びます。
- GMO インターネットグループでは、ハイパーオートメーション化された企業グループを実現するためのAI 人材を育成する「一騎当千プロジェクト」^(※3)を通じて、AI エージェントを実務で試す環境の整備を進めており、こうした取り組みが活用率の急伸につながっています。

(※3) : 「一騎当千プロジェクト」 <https://group.gmo/news/article/9771/>

AIエージェント利用（業務活用者）



⑤ AI を利用する中で、人間がやった方が良いと感じることは？

- ハルシネーション対策のため、最後の確認は人間がすべきとの回答は引き続き多く見られました。特に数値・日付・法律情報などは注意が必要です。
- 対人業務は人間がすべきという回答も引き続き多く見られました。AI の「察する」能力への限界感は多くのパートナーの共通認識としてあるようです。
- 生成 AI へのコーディング依頼は増加傾向にありますが、「任せすぎ」による事故が実体験として発生しているため、人間のレビューは必須との意見がありました。

■パートナーのコメント

<AI を使っていて「まだ自分（人間）がやったほうが良い」と感じたことがあれば教えてください。>

- 「最終的なものは人間がやらないと不安。ハルシネーションがなくなることはない。」
- 「人間に絡むところはまだまだ AI に任せない方がいい。クレーム対応・感情面のサポート。」「商談・対面交渉は人間が必要。」
- 「AI がデータマイグレーション時に不要そうなフィールドを勝手に削除し、本番データが消えたことがある。」「設計判断やビジネスロジックの検証は自分で行う。」

AIより人間が得意な6つの領域



出典：AI活用状況アンケート 2026年1Q (GMOグループ n=5,353)

▲AI 生成によるインフォグラフィック例

※AI 生成のため漢字が誤っている場合があります

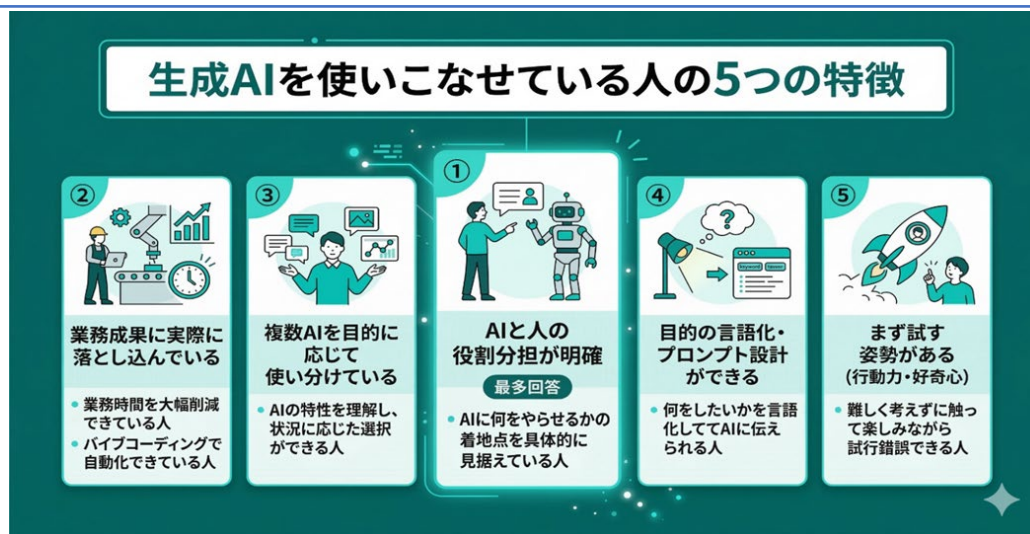
⑥ 生成 AI を使いこなしている人の条件とは？

- ・ AI へ全面依存するのではなく、**人と AI の協調が「使いこなし」の本質**として認識されています。
- ・ 単一ツールのみでの使用ではなく、**目的に応じて複数 AI を使い分けることが使いこなしている条件**として認識されています。
- ・ プロンプトエンジニアリングよりも「**目的の言語化能力**」が重要という認識が広がってきています。

■ パートナーのコメント

＜あなたにとって、生成 AI を使いこなせているなと思う人はどんな人ですか？＞

- ・ 「AI は道具であり、判断は人間がする。その境界線を常に意識して使える人」「AI に何をやらせるか(着地点)を具体的に見据えて指示を出せている人。」
- ・ 「各種生成 AI のサービスの特性を理解している人。」「先々の AI ツールごとの特徴を理解し、どの作業はどの AI を使えばよいかを判断できる人。」
- ・ 「難しく考えるよりまず触ってみて、楽しみながら試行錯誤している人。」



▲AI生成によるインフォグラフィック例

※AI生成のため漢字が誤っている場合があります

【グループ内 AI 推進プロジェクト「AI しあおうぜ！」リーダー 李 奨培 (り じゃんべ) コメント】

AI エージェントと協働する社会が一步步着実に近づいて来ました。ハイパーオートメーションの実現には、「自動化を前提とした組織づくり」と AI と協働出来る「ニンゲン」の育成が不可欠です。2026 年は「底上げ」を再注力し、各パイプラインで「人間しか出来ないこと」を出来る仲間を増やすのを目標としています。



【GMO インターネットグループについて】

GMO インターネットグループは、ドメインからセキュリティ、決済までビジネスの基盤となるサービスをご提供するインターネットインフラ事業を軸に、インターネット広告・メディア事業、インターネット金融事業、暗号資産事業を展開する総合インターネットグループです。

また、「AI で未来を創る No. 1 企業グループへ」を掲げ、グループ全パートナーを挙げて生成 AI を活用することで、① 時間とコストの節約、② 既存サービスの質向上、③ AI 産業への新サービス提供を進めています。(※4) なお、生成 AI を活用し、2024 年は年間で推定約 150 万時間の業務削減を実現しています。

お客様に喜ばれるサービスを迅速かつ低価格で提供するために、サービスは機器の選定から設置、構築、開発、運用までを内製化することを基本方針としています。そのため、グループ 110 社以上に在籍す

る約 8,000 名のパートナーのうち、IT のモノづくりを担う開発者（エンジニア・クリエイター）が 50% を超えています。（2025 年 6 月末時点）

（※4）参考 URL 「AI で未来を創る No.1 企業グループ」実現への取り組み <https://group.gmo/ai-history/>

GMO インターネットグループで実施する AI 活用促進の例については別紙に記載をしております。

以上

【報道関係お問い合わせ先】

●GMO インターネットグループ株式会社

グループ広報部 PR チーム 倉田

TEL : 03-5456-2695

問い合わせフォーム : <https://group.gmo/contact/press-inquiries/>

【GMO インターネットグループ株式会社】（URL : <https://group.gmo/>）

会 社 名	GMO インターネットグループ株式会社 （東証プライム市場 証券コード：9449）
所 在 地	東京都渋谷区桜丘町 26 番 1 号 セルリアンタワー
代 表 者	代表取締役グループ代表 熊谷 正寿
事 業 内 容	持株会社（グループ経営機能） ■インターネットインフラ事業 ■インターネットセキュリティ事業 ■インターネット広告・メディア事業 ■インターネット金融事業 ■暗号資産事業
資 本 金	50 億円

Copyright (C) 2026 GMO Internet Group, Inc. All Rights Reserved.